時間の経過とともに明らかになる甚大な被害。

震度6強の強い地震による被害は時間の経過とともに明らかになってきました。ここでは、大地震の過程を写真とともに紹介します。
また、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の放出の影響についてもお知らせします。

3月11日午後2時46分頃、三陸沖を震源とするマグニチュード9．0の大地震が発生し、宮城県栗原市で最大の震度7を観測、白河市では震度6強の強い揺れがありました。
同日午後3時15分頃には、茨城県沖を震源とするマグニチュード7．3の地震も発生し、本市でも断続的な余震が続きました。
北海道から九州にかけての広い範囲で強い揺れと、津波に見舞われ、死者・行方不明者は東北を中心に2万人を超える大災害となりました。
マグニチュード9．0は、記録が残る1923年以降国内で最大。昨年2月のチリ大地震（M8．8）を超える世界最大級の地震となり、「平成23年東北地方太平洋沖地震」と命名されました。
この地震により、本市の葉ノ木平地区では山の崩落で13人、萱根地区では瓦の落下で1人、大信隈戸では土砂崩れで1人が巻き込まれる大惨事となりました。市内の道路はいたるところで亀裂・陥没・隆起などを起こし、停電や断水となる非常事態となりました。この事態に対し市は災害対策本部を設置。被災者の捜索に、広域市町村圏消防本部・地域消防団・警察、さらに自衛隊の応援を要請するとともに二次災害の防止とライフラインの回復に、官民共同で取り掛かりました。
地震による断水は、広範囲にわたり、水道管は修復する度に新たな漏水が発生し、復旧に多くの時間がかかりました。
16日、断水状況も徐々に収束されてきましたが、津波の被害を受けた東京電力福島第一原子力発電所の原子炉が機能不全に陥り、放射性物質が放出され、原子炉の半径20㎞から30㎞圏内の住民に対して屋内退避勧告が出されました。本市にも他の市町村から多くの避難者が訪れたため、中央中学校体育館を避難所として開放しました。
「放射性物質は人体に影響を及ぼす値ではない」と政府は発表したものの、多くの市民が戸惑いと不安を感じていました。また、流通の寸断による燃料をはじめとした物資等の不足がさらなる心理的な追い打ちをかけてきました。
原子力発電所の危機的状況は、東京消防庁などの放水により一次回避されましたが、原発を安全に止めるための電源復旧の作業が日夜続けられています（22日現在）。
24日、水道は94．8％が復旧しました。現在では、被災者に対しての住宅対策など新たな復旧支援へ取り掛かっています。

①地震による火事発生（東釜子）②災害対策本部の様子（白河市役所）③白河駅前東公園の給水所（大手町）④白河小峰城の石垣陥落（郭内）⑤援助物資の搬入（中田）⑥土留の崩壊（中野山）⑦東風の台公園に自衛隊災害派遣隊の本部設置（東釜子）⑧葉ノ木平での人命捜索⑨道路に亀裂（大信隈戸）⑩天井が落ちた給食センター（関辺）⑪東地区の鹿島神社で鳥居崩壊（東下野出島）⑫中央体育館避難所で情報確認する避難者（北中川原）⑬中央体育館の様子（北中川原）

放射能の影響は

Radiation effect

福島県放射線健康リスク管理アドバイザーの長崎大学大学院の山下俊一氏の会見を抜粋したものです。白河市の放射能測定値は3月25日11時現在で1.10マイクロシーベルトです。　※1ミリシーベルト＝1,000マイクロシーベルト

1時間当たり20マイクロシーベルトの放射線が注いだとしても、人体に取り込まれるのは約1/10の2マイクロシーベルト以下かさらに少ないと考えられます。2マイクロシーベルトを24時間受け続けたとしても約50マイクロシーベルトにしかなりません。
世界中には、1年間に10ミリシーベルトや50ミリシーベルトの被ばくを自然界から受ける放射線の高い地域がありますが、その環境下に住んでいる方々でも、将来がんになるリスクは、他の地域の方々と全く変わりません。

白河市の環境放射線サーベイ結果は、県南振興局のホームページの「東北地方太平洋沖地震関連情報」でご覧いただけます。
◎ホームページアドレス
http://www.pref.fukushima.jp/ken-nan/shinko/index/index.html